

FUJITEC

証券コード:6406

第63期 株主通信

平成21年4月1日～平成22年3月31日



“One Goal, One Fujitec”

最高の商品とサービスを目指し、心ひとつに！

フジテックのエレベータ拠点“ビッグウイング”に続き、
エスカレータ拠点“ビッグステップ”、アフターマーケット拠点“ビッグフィット”が、
最新鋭の施設と設備を備えて生まれ変わりました。
このインフラ再構築事業を成し遂げた中期経営計画が終了し、
2010年度から新中期経営計画“**One Goal, One Fujitec**”が新たにスタート！
世界で活躍するフジテック・グループが、最高の商品とサービスを
お客様にご提供するという一つの目標に向け、全員が心をひとつにして、
新たな企業価値の創造と、大いなる躍進を目指しています。

▶ 行動ビジョン

- 1** グローバル、特にアジアを今後最も成長するエリアと位置付け、
ポジションを高める。
- 2** 国内事業を構造改革し、新設事業の収益改善と
アフターマーケットのポジションを高める。
- 3** 安全と品質を最優先に、顧客の信頼と期待に応えるために、
人材の育成を強化する。

Contents

社長インタビュー	1
主な活動概況	4
トピックス	6
環境保全への取り組み	9
連結決算情報	10
株式の状況	14
企業データ	15
株式についてのご案内	16

中期経営計画“Regeneration for Quality”最終年度のご報告と
新中期経営計画“One Goal, One Fujitec”の実践目標について

グローバル市場でのプレゼンスを一層高め、 世界のお客様の信頼と期待にお応えします。



代表取締役社長 内山 高一

——このたび、インフラ再構築事業として、“ビッグステップ”と“ビッグフィット”が完成しましたね。

中期経営計画“Regeneration for Quality”の大きな事業計画でありました「エスカレーター拠点とアフターマーケット拠点」の再構築が、今年4月に相次いで完遂いたしました。

エスカレーター開発・生産拠点“ビッグステップ”は、兵庫県豊岡市に位置し、生産体制の更なる拡充と研究開発体制の一層の強化を図るため、新たにオフィス棟と工場棟を建設したものです。これにより、エスカレータの開発から生産までのスピーディーな一貫体制を構築し、更なる事業の拡大を目指していきます。

一方、アフターマーケット拠点“ビッグフィット”は、大阪府茨木市の旧日本社にあり、フィールド技術研究所、人材開発センター、セーフネットセンター、部品センターが集結し、利用者の皆様の“安全・安心”を更に高め、確かな信頼を築く中核拠点としての役割を担っていきたいと考えています。

——世界経済は回復基調にありますが、昇降機市場の状況は、いかがでしたでしょうか。

昨年度の世界経済は、一昨年秋以降の金融市場の混乱と実体経済の急減速を脱し、日本や欧米では政策効果もあって、期の後半に向けて緩やかな回復が見られました。アジア地域において、中国は景気刺激策により、内需を中心に景気は急回復を辿り、その他のアジア地域も、各国の景気対策や輸出の増加を背景に、総じて回復基調で推移しました。

こうした情勢の中、当社に関連します昇降機業界において、中国市場では不動産開発投資の回復により、需要は比較的堅調に推移しましたが、北米や日本を始めとするその他の市場では不動産市況の冷え込みにより、集合住宅用、商業施設用ともに需要は低調に推移し、厳しい事業環境が続きました。

——第63期は中期経営計画の最終年度でしたが、昨年度の業績はどのようになりましたか？

昨年度の連結売上高は、国内売上高が480億66百万円で前期と比べて5.0%増加したのに対し、海外売上高が前期比6.1%減の580億70百万円となり、前期と比べて1.4%減少の1,061億37百万円となりました。なお、海外売上高は為替変動による影響を除くと、中国での大幅な増加により実質7.1%増加となっています。

損益面では、日本での黒字転換や東アジアでの大幅な増益により、営業利益は前期比105.9%増加の52億88百万円となりました。営業外収支は、為替差損の減少などで7億65百万円の利益となり、経常利益は60億53百万円で前期と比べて137.9%増加しました。

さらに、特別損益の純額が、たな卸資産評価損などの減少により、前期に比べ13億90百万円改善したことにより、税金等調整前当期純利益は前期比48億99百万円増加の61億63百万円となりました。

税金費用が前期に比べて減少した一方、少数株主利益が

増加した結果、当期純損益は前期の純損失6億49百万円から、40億61百万円の純利益となりました。

——第64期からスタートしました新中期経営計画の経営方針や重点課題についてお聞かせください。

当社では2010年度から、新しい3カ年中期経営計画“One Goal, One Fujitec”をスタートさせました。世界で活躍するフジテック・グループが、一つの目標に向けて、全員が心を合わせ、グローバル市場でのプレゼンスをより一層高め、企業価値の更なる増大に努めることで、世界のステークホルダーから高い信頼を得る企業組織体へと進化していきたいと考えております。

この経営方針に沿った具体的な行動ビジョンとしましては、「グローバル、特にアジアを今後最も成長するエリアと位置付け、ポジションを高める」「国内事業を構造改革し、新設事業の収益改善とアフターマーケットのポジションを高める」「安全と品質を最優先に、顧客の信頼と期待に応えるために、人材の育成を強化する」という3点を重点課題としています。

そして、最終年度となります2013年3月期の経営目標としましては、連結売上高1,200億円、連結営業利益80億円、連結営業利益率6.7%の達成を目指していきます。

——世界市場に向けては、どのようなグローバル戦略を展開していかれますか？

世界最大の昇降機市場である中国において、依然根強い

需要があることから、生産体制と拡販体制を一層強化し、更なるシェア拡大を図っていきます。北京近郊のエレベータ生産拠点「華昇フジテック」と、上海のエスカレータ生産拠点「上海華昇フジテック」に加え、機器供給拠点となる「上海調達センター」の新工場が昨年完成し、本格稼働を開始しました。クオリティーとコストメリットを高めた機器を迅速に安定して世界へ供給することで、一層の収益向上につなげていきます。

さらに、北米、香港、シンガポールといった成熟市場では、モダニゼーション需要の獲得に全力を挙げ、収益の一層の拡大に取り組んでいきます。

——国内市場においては、どのような戦略を展開していきますか？

エレベータ拠点“ビッグウィング”に続き、エスカレータ拠点“ビッグステップ”、アフターマーケット拠点“ビッグフィット”の3拠点がそろいましたので、それぞれが有機的に連携し、より強固な企業基盤の下で、「攻めの経営」に臨んでまいります。

今年4月、エリア別マネジメントを主体とする新組織体制に移行し、新設事業における営業基盤の一層の強化を図ることで、最新型のエレベータ〈エクシオール〉とエスカレータ〈GS-NX〉シリーズの拡販に取り組んでいきます。

アフターマーケット事業においては、メンテナンス、モダニゼーションの需要が堅調なことから、引き続き、需要の掘り起こしに全力を挙げ、収益の一層の拡大に努めていきます。

さらに、新組織体制では、モノづくりやサービスを支えるのは“人”であることから、全社の人材育成の強化にも取り組んでいきます。

——当期の配当金についてお聞かせください。

当期の期末配当金につきましては、業績の推移を勘案し、1株当たり6円とさせていただきます。これにより、当期の年間配当金は、中間配当1株当たり4円と合わせ、1株当たり10円となります。

——最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

今年は新中期経営計画の初年度として、経営方針、経営目標、および3つの行動ビジョンに沿って全社全部門が結束し、“安全と品質”を最優先にお客様の信頼と期待にお応えしていきたいと考えております。

今年度は、“ビッグステップ”“ビッグフィット”、それに「上海調達センター」の新たなスタートの年であり、フジテック・グループが一丸となって、マーケットシェアの拡大、収益の向上に向け、大いなる躍進を目指していきたいと考えます。

これからもグローバルな企業活動を通して、お客様にご満足のいただける最高の商品とサービスをご提供し、企業価値の更なる向上に努めてまいります。株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ 日本 Japan

大阪では、今年3月に改装・増床オープンした“高島屋大阪店”に展望用機種を含む、エレベータとエスカレータ計30台が活躍しています。



高島屋大阪店

奈良県大和郡山市では、同じく3月にオープンした複合商業施設“イオンモール大和郡山”にエスカレータ26台が活躍するほか、静岡県磐田市の大型商業施設“ららぽーと磐田”にエレベータとエスカレータ計36台を納めています。

また、会員制リゾートホテル向けに相次いで納入し、兵庫県では日本最古の温泉地「有馬温泉」の“東急ハーヴェストクラブ有馬六彩”、神奈川県箱根では“エクシブ箱根離宮”に、多数のエレベータが納められています。

東京では、銀座6丁目に建設される商業施設“(仮称)銀座コマツ計画”向けに、エレベータとエスカレータ計19台を受注しました。

また、大阪では、阪急梅田駅東側に建設される複合ビル向けに、エレベータとエスカレータ計29台を受注しています。

このほか、古くなったエレベータの更新需要も旺盛で、東京都の“中央合同庁舎5号館”向けにモダンゼーション工事を受注したほか、大阪府豊中市の“北緑丘団地”や東京都住宅供給公社向けのモダンゼーション工事が完成しました。



東急ハーヴェストクラブ有馬六彩

■ 北南米 North & South America

米国では、コロラド州・デンバーにおいて、ホテルと高級住宅から成る複合ビル“フォーシーズンズ・プライベート・レジデンス・デンバー”に、分速300mの高速機種を含むエレベータ9台が納められます。同じく米国では、ニューヨーク市に建設される商業施設“チャンネルジー・プラザ”向けにエレベータとエスカレータ計17台を受注しました。

カナダでは、冬季オリンピックに沸いたバンクーバーに世界的ホテルと高級コンドミニアムの複合ビル“シャングリ・ラ ホテル バンクーバー”が完成しました。ここには、超高速機種を含むエレベータ13台が活躍しています。また、カナダ・カルガリー市に建設される新交通システム“ウエストLRT”のターミナル向けにエレベータとエスカレータ計25台を受注しました。



シャングリ・ラ ホテル バンクーバー

アルゼンチン・ブエノスアイレスでは、プエルト・マデーロ地区に建つ“マデーロ・オフィス”向けにエレベータ20台が納められるほか、“市営地下鉄H、A、B線”にもエスカレータとオートウォーク(動く歩道)計75台を納入しています。



市営地下鉄H、A、B線

■ 東アジア East Asia



ザ・ペニンシュラ上海

中国・上海市では世界屈指の五つ星ホテル“ザ・ペニンシュラ上海”がオープンし、高級エレベータとエスカレータ計27台が活躍しています。同じく中国では、遼寧省鞍山市で建設中の大規模住宅開発プロジェクト向けにエレベータ

248台を一括受注したほか、各地の住宅開発プロジェクト向けに大量のエレベータを受注・納入しています。

香港では、香港鉄道のチュンクワンオウ駅に隣接する6棟の高層住宅と商業施設向けにエレベータとエスカレータ計53台、オリンピック駅に隣接する6棟の超高層住宅向けにもエレベータとエスカレータ計41台を受注しました。

台湾では、新竹市に建つ五つ星ホテル“シェラトン新竹ホテル”と、隣接する“グローリー・ホテル”に格調高いエレベータとエスカレータ計28台が活躍しているほか、高雄市の左営駅に近接する商業施設“新光三越デパート左営店”向けに、エレベータ・エスカレータ・オートウォーク計59台を納めています。



シェラトン新竹ホテル

■ 南アジア South Asia

シンガポールでは、超高層コンドミニアム“ザ・セイル”に超高速機種を含むエレベータとエスカレータ計25台が納められています。同じくシンガポールでは、斬新な外観が特徴の商業ビル“シビック・カルチュラル・リテール・エンターテインメント・センター”向けにエレベータ・エスカレータ・オートウォーク計65台を受注したほか、住宅開発局の住宅向け既設エレベータ311台のモダニゼーション工事を受注しています。



ザ・セイル



シビック・カルチュラル・リテール・エンターテインメント・センター完成予想図

マレーシアでは、マラッカ州の大型商業施設“イオン・バンダラヤ・マラッカ・ショッピングセンター”向けに、エレベータとエスカレータ計37台を納入しています。

■ 欧州・中東 Europe & Middle East

アラブ首長国連邦では、都市鉄道プロジェクト“ドバイ・メトロ”が開業し、駅舎から幹線道路上にかかる歩道橋に、オートウォーク92台が設置されています。

また、同鉄道のアル・クサイス駅に隣接する施設向けに、このほどエレベータ・エスカレータ・オートウォーク計33台を受注しました。



ドバイ・メトロ

“ビッグステップ” “ビッグフィット” が相次いで竣工！

■最新鋭の設備を備えたエスカレータ開発・生産拠点“ビッグステップ”

フジテックのエスカレータ拠点は、兵庫県豊岡市にあり、1989年2月から操業を行ってきましたが、生産体制の更なる拡充と、研究開発体制の一層の強化を図るため、新たにオフィス棟と工場棟の建設を行いました。

今年4月6日、新社屋と既設工場のリニューアルが完成し、新たなエスカレータ開発・生産拠点“ビッグステップ”として生まれ変わりました。

研究開発施設としては、エスカレータの性能・安全性・耐久性などのテストを行う「実験室」と、ハイライズ機種用の架台を工場内に完備。技術的検証、組み立て完成確認テストを行い、万全の品質管理体制を確立しています。

また、生産ラインでは、レイアウト再編により、最大限の

生産効率を追求し、エスカレータの組み立てから出荷までに要する日数を従来より半減しました。

さらに、コンピュータ制御の生産設備を多数導入し、徹底した自動化を図っているほか、厳密な工程内検査・最終検査を実施し、高精度で高品質な商品づくりに取り組んでいます。

これら最新鋭の研究開発施設と生産設備を大いに活用し、業界に先駆けた新商品の開発を行うとともに、開発から生産に至るまでのスピーディーかつスムーズな一貫体制を確立することで、更なるシェア拡大を目指しています。



ビッグステップ 外観

インフラ再構築により、大いなる躍進を目指します。

■ “安全・安心”を高めるアフターマーケット拠点“ビッグフィット”

大阪府茨木市の旧本社では、エレベータやエスカレータを設置した後のアフターマーケット拠点として、施設の拡充を進めてきましたが、今年4月28日に新社屋と既設社屋のリニューアルが完成し、“ビッグフィット”として一新しました。

ここには、据付・メンテナンスを核とするフィールド技術の更なる向上と革新に取り組む「フィールド技術研究所」を始め、基礎技術から最新技術までを幅広く習得することで、人材育成の一層の強化に取り組む「人材開発センター」、それにグローバル市場にも対応可能な部品の保管・供給基地「部品センター」が集結しています。

さらに、24時間遠隔監視を行う「セーフネットセンター」が稼働するとともに、万一の広域災害時には

対策本部としての重要な機能を担います。

これらフィールド関連の施設が緊密な連携体制を確立することによって、利用者の“安全・安心”を一層高め、確かな信頼を築いていきます。

フジテックでは、エレベータ開発・生産拠点“ビッグウイング”、エスカレータ開発・生産拠点“ビッグステップ”と合わせ、国内3拠点が整備できたことで、より強固な企業基盤の下で、大いなる躍進に向けて邁進しています。



セーフネットセンター



ビッグフィット 外観

「中国国際エレベータ展覧会」が盛大に開催。

世界の昇降機メーカーが一堂に会し、最新技術や商品を披露する「2010年中国国際エレベータ展覧会」が4月21日から4日間、北京近郊の河北省廊坊市にある国際展覧センターにて盛大に開催されました。

展示面積約50,000㎡、展示会場6カ所という同展覧会では、国内外のエレベータ・エスカレータおよび部品メーカー約600社が参加し、期間中、来場者は延べ4万5千人に及び世界最大規模のエレベータ展覧会となりました。

フジテックの中国でのグローバル法人「華昇フジテック」と「上海華昇フジテック」も、共同で出展。フジテックのブース「体験館」は、“人と環境に優しく、安全なエレベータの追求”をテーマとしました。



フジテックブース



主な展示内容としては、永久磁石式のマシンとドア開閉装置を設置し、その動作を見ることができのを始め、ドア周りの安全を強化するドアセンサー、行先予約案内システム、さらにエスカレータの実機と最新装置を展示し、実際に来場者に乗り心地や安全性を体験していただきました。

開催期間中、世界各国から来たエレベータ・エスカレータのディーラーはフジテックの先進技術に大きな関心を寄せるとともに、来場者からも卓越した技術に高い評価を頂きました。

同展が開催された廊坊市には、「華昇フジテック」の本社工場があり、展覧会を訪れた世界からのお客様を工場やリニューアルしたショールームにご案内し、多彩な商品ラインアップと万全な品質管理体制を大いにアピールしました。



「華昇フジテック」の新ショールーム

商品および企業活動において、 省エネ・省資源化を推進しています。

フジテックでは、地球温暖化や有害物質の削減など、地球環境問題に対応して、様々な活動を積極的に計画・推進しています。

エレベータやエスカレータの商品においては、照明にLED光源を採用しているほか、高効率モータの導入などにより、消費電力の削減を図っています。

また、鉛やクロムなどの有害物質の使用を削減する取り組みとして、電子機器基板、化粧鋼板、塗装工程などで、有害物質を削減した環境に優しい製品づくりを行っています。

さらに、今年4月に改正施行された「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(改正省エネ法)に対応して、全社挙げて

エネルギー管理の徹底を図っています。

このほど完成した“ビッグステップ”“ビッグフィット”で、屋上緑化や氷蓄熱による空調システムを始めとして、工場天井への採光窓や熱反射ガラスの採用、消費エネルギーの一層の削減に向けた取り組みを進めました。

既存工場や事業所においても、温度管理の徹底、照明器具のエコ化、工場設備の見直しを計画・推進しています。

このほか、据付やメンテナンスにおいても、部品、機器梱包材の簡素化やリユース、および物流のモーダルシフト(トラック輸送の一部を鉄道に転換)によるCO₂削減を進めており、地球環境保全の活動を更に推進していきます。



LED全面光照明を採用した
最新型エレベータ(エクシオール)



“ビッグステップ”の3階オープンテラス



“ビッグステップ”の屋上緑化

Financial Results

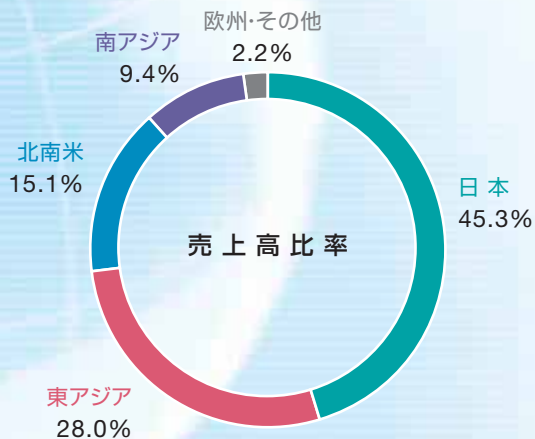
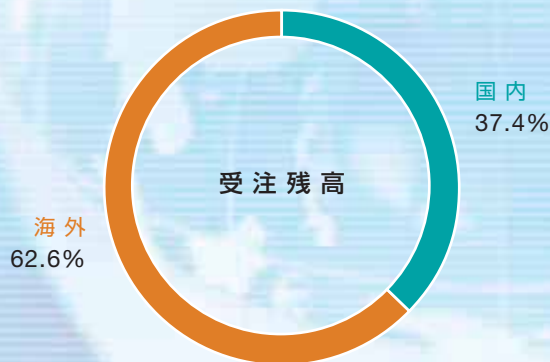
連結決算情報

■ 営業の状況

平成22年3月期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

金額(百万円)

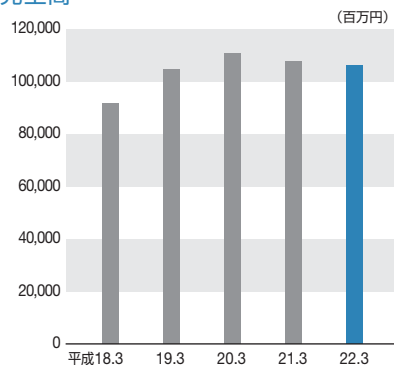
	受注高	売上高	受注残高
国内	44,114	48,066	37,221
海外	57,705	58,070	62,234
合計	101,820	106,137	99,456



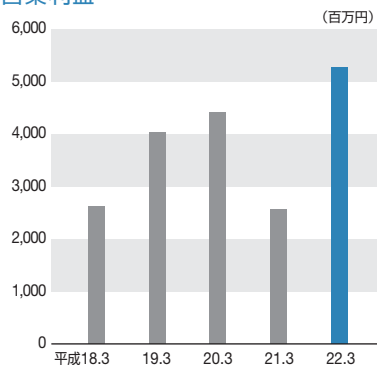
業績の推移

		平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期
売上高	百万円	91,627	104,716	110,632	107,609	106,137
営業利益	百万円	2,634	4,037	4,428	2,568	5,288
経常利益	百万円	3,214	4,772	4,725	2,544	6,053
当期純利益または当期純損失(△)	百万円	1,021	7,245	2,219	△ 649	4,061
1株当たり当期純利益または当期純損失(△)	円	10.58	77.32	23.66	△ 6.94	43.40
総資産	百万円	115,970	122,889	112,043	100,823	111,099
純資産	百万円	60,553	71,786	68,355	59,810	64,056
1株当たり純資産	円	646.41	713.27	675.35	591.87	636.25
研究開発費	百万円	1,834	1,880	2,257	2,008	1,882
設備投資	百万円	8,506	4,738	2,003	2,733	6,564

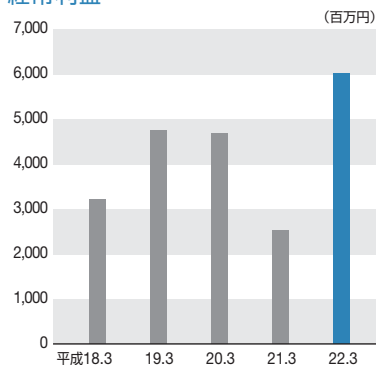
売上高



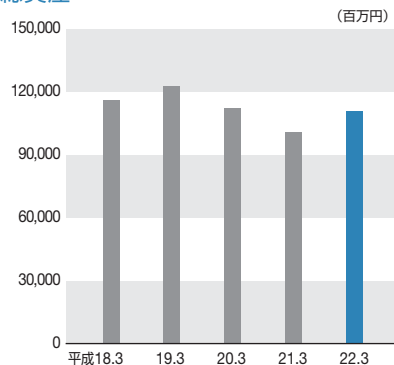
営業利益



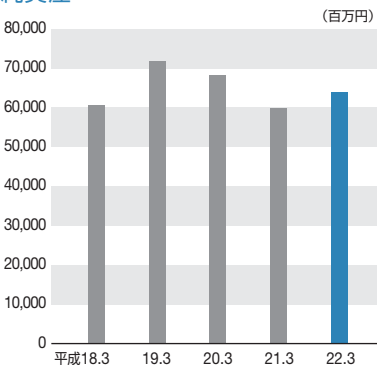
経常利益



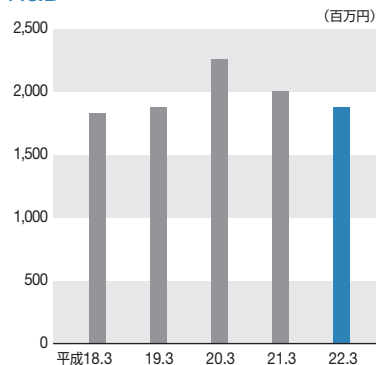
総資産



純資産



R&D



■ 連結貸借対照表

(平成22年3月31日現在)

金額(百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	66,690	流動負債	37,634
現金及び預金	21,277	支払手形及び買掛金	11,846
受取手形及び売掛金	30,090	短期借入金	5,471
商品及び製品	3,228	1年以内返済予定の長期借入金	1,071
仕掛品	4,167	リース債務	10
原材料及び貯蔵品	5,057	未払法人税等	1,025
繰延税金資産	1,300	賞与引当金	1,304
その他	1,980	工事損失引当金	2,792
貸倒引当金	△ 412	完成工事補償引当金	163
固定資産	44,409	損害補償損失引当金	140
有形固定資産	31,081	前受金	7,751
建物及び構築物	19,312	その他	6,054
機械装置及び運搬具	2,386	固定負債	9,409
工具、器具及び備品	1,461	長期借入金	3,612
土地	6,850	リース債務	15
リース資産	26	繰延税金負債	1,329
建設仮勘定	1,043	退職給付引当金	4,261
無形固定資産	3,282	長期未払金	191
のれん	1,006	負債合計	47,043
その他	2,275	純資産の部	
投資その他の資産	10,045	株主資本	76,201
投資有価証券	5,808	資本金	12,533
長期貸付金	1,923	資本剰余金	14,565
繰延税金資産	53	利益剰余金	49,228
その他	2,454	自己株式	△ 126
貸倒引当金	△ 193	評価・換算差額等	△ 16,661
資産合計	111,099	その他有価証券評価差額金	834
		繰延ヘッジ損益	0
		為替換算調整勘定	△ 17,496
		少数株主持分	4,516
		純資産合計	64,056
		負債・純資産合計	111,099

(注) 1. 当年度の連結子会社は18社であり、持分法適用会社はありません。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■ 連結損益計算書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

金額(百万円)

売上高	106,137
売上原価	85,857
売上総利益	20,279
販売費及び一般管理費	14,991
営業利益	5,288
営業外収益	1,135
受取利息	396
受取配当金	186
助成金収入	240
雑収入	312
営業外費用	370
支払利息	229
為替差損	39
雑損失	101
経常利益	6,053
特別利益	266
固定資産売却益	11
投資有価証券売却益	155
集約化特別助成金	100
特別損失	156
固定資産売却損	17
固定資産除却損	128
投資有価証券売却損	3
投資有価証券評価損	6
税金等調整前当期純利益	6,163
法人税、住民税及び事業税	1,688
法人税等調整額	△ 591
少数株主利益	1,005
当期純利益	4,061

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

金額(百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	6,701
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,308
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,142
現金及び現金同等物に係る換算差額	344
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,405
現金及び現金同等物の期首残高	9,388
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	856
現金及び現金同等物の期末残高	7,839

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■ 連結株主資本等変動計算書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

金額(百万円)

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計	
平成21年3月31日残高	12,533	14,565	46,161	△ 122	73,138	
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当			△ 842		△ 842	
連結範囲の変動			△ 152		△ 152	
当期純利益			4,061		4,061	
自己株式の取得				△ 4	△ 4	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						
連結会計年度中の変動額合計	—	—	3,066	△ 4	3,062	
平成22年3月31日残高	12,533	14,565	49,228	△ 126	76,201	

	評価・換算差額等					少数 株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計	少数 株主 持分		
平成21年3月31日残高	215	—	△17,962	△17,747	4,418	59,810	
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当						△ 842	
連結範囲の変動						△ 152	
当期純利益						4,061	
自己株式の取得						△ 4	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	618	0	466	1,085	97	1,183	
連結会計年度中の変動額合計	618	0	466	1,085	97	4,245	
平成22年3月31日残高	834	0	△17,496	△16,661	4,516	64,056	

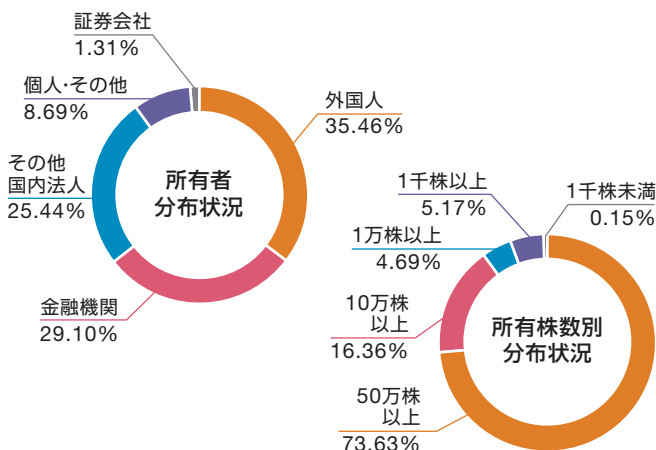
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

Stock Information

株式の状況

発行済株式の総数	93,767,317株
株主数	3,661名
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所

所有者分布状況・所有株数別分布状況

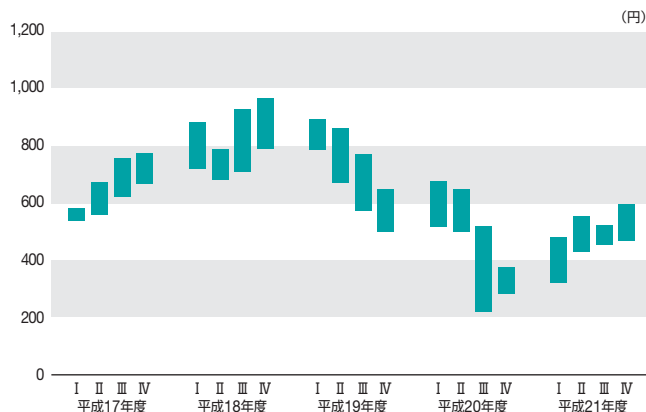


大株主

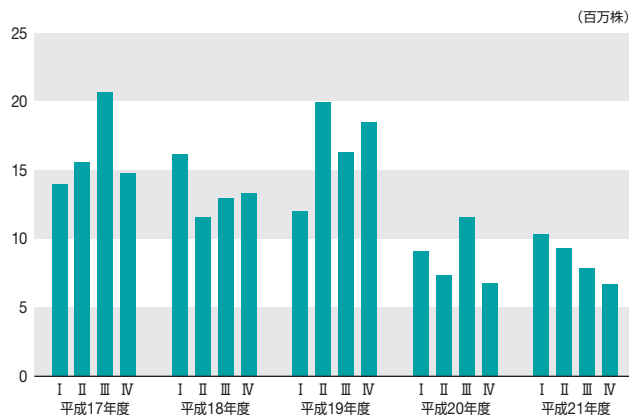
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1. シティグループグローバル・マーケッツ・インク	13,852	14.80
2. 株式会社ウチヤマ・インターナショナル	10,025	10.71
3. 富士電機ホールディングス株式会社	5,089	5.43
4. クレディット スイス アーゲー チューリッヒ	4,571	4.88
5. 株式会社りそな銀行	4,203	4.49
6. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,904	4.17
7. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	3,110	3.32
8. メロン バンク トリーティー クライアンツ オムコパス	2,478	2.64
9. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,217	2.36
10. 株式会社みずほコーポレート銀行	1,989	2.12

(注) 持株比率は平成22年3月31日現在の発行済株式総数である93,767,317株から自己株式188,458株を控除して計算しています。

株価推移



出来高推移



企業データ

■ 会社の概況

設立 昭和23年2月9日

資本金 125億3,393万円 (平成22年3月31日現在)

■ フジテック・グループ

日本 本社 滋賀県彦根市 ビッグウィング TEL(0749)30-7111
東京本社 東京都港区三田3丁目9-6 TEL(03)4330-8200

北米 アメリカ FUJITEC AMERICA, INC.
カナダ FUJITEC CANADA, INC.
グアム FUJITEC PACIFIC, INC.

南米 ベネズエラ FUJITEC VENEZUELA C.A.
アルゼンチン FUJITEC ARGENTINA S.A.
ウルグアイ FUJITEC URUGUAY

欧州 ドイツ FUJITEC DEUTSCHLAND GmbH
イギリス FUJITEC UK LTD.

中東 サウジアラビア FUJITEC SAUDI ARABIA CO., LTD.
エジプト FUJITEC EGYPT CO., LTD.
アラブ首長国連邦 FUJITEC UAE

南アジア シンガポール FUJITEC SINGAPORE CORPN. LTD.
フィリピン FUJITEC, INC.
マレーシア FUJITEC (MALAYSIA) SDN. BHD.
インドネシア P.T. FUJITEC INDONESIA
インド FUJITEC INDIA PRIVATE LTD.
ベトナム FUJITEC VIETNAM CO., LTD.

東アジア ホンコン FUJITEC (HK) CO., LTD.
台湾 富士達股份有限公司
コリア FUJITEC KOREA CO., LTD.

中国 中国 華昇富士達電梯有限公司
中国 上海華昇富士達扶梯有限公司
中国 上海富士達電梯研発有限公司
中国 富士達電梯配件(上海)有限公司
中国 FUJITEC CHINA

■ 役員

取締役	代表取締役社長	内山 高一
	代表取締役	関口 岩太郎
	取締役	野木 正彦
	取締役	北川 由雄
	取締役	西垣 博志
	取締役	花川 泰雄
	取締役	稲葉 和夫

監査役	常勤監査役	松原 敏之
	監査役	中野 正信
	監査役	佐伯 照道

執行役員	執行役員社長	内山 高一*
	執行役員副社長	関口 岩太郎*
	専務執行役員	野木 正彦*
	専務執行役員	北川 由雄*
	常務執行役員	津山 圭二
	常務執行役員	岡田 隆夫
	常務執行役員	西口 久信
	常務執行役員	船見 実生
	執行役員	梶田 順司
	執行役員	山城 啓二
	執行役員	奥田 勝次
	執行役員	井上 治男
	執行役員	多川 正弘
	執行役員	原田 政佳
	執行役員	内山 泰行
	執行役員	筒井 邦彦

*は兼務しています。

(平成22年6月25日現在)

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主總會	毎年6月
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日 なお、中間配当の株主確定日は9月30日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載することといたします。 ホームページアドレス： http://www.fujitec.co.jp/koukoku/
株主名簿管理人	東京都港区芝3丁目33-1 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目2-21 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	1,000株

●住所変更、単元未満株式の買取りのお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、本年より配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

※確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。

“安全・安心”を更に追求しました。



更に使いやすく、多彩に進化した
マシンルームレス・エレベータ

XIOR
エクシオール

2009年日経優秀製品・サービス賞
優秀賞 受賞
ドアエッジセンサー

レーザー方式ひも状物体検出装置
「ドアエッジセンサー」 **NEW**

ペット用リードや、点滴チューブなどが、万
エレベータのドアに挟まれ、エレベータが走行すれば、
大きな事故を引き起こしかねません。フジテックでは、
こうした事故を低減するため、業界で初めてレーザー
方式のひも状物体検出装置「ドアエッジセンサー」を開発。
ひもやコードの挟み込みを検出すると、ドアを反転して開きます。

レーザーで
挟み込みを検出

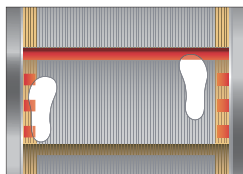


都市と調和し、確かな安全性を備えた
標準型エスカレータ

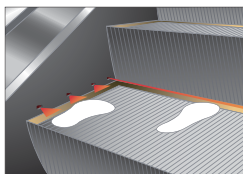
GS-NX
シリーズ

ステップなどへの挟まれ防止を一段と強化
「フットセーフティセンサー」 **NEW**

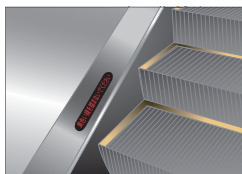
エスカレータのステップ上にて、スカートガードとの隙間に、靴やサンダルなどが挟まれるのを
防止する「フットセーフティセンサー」。スカートガードにセンサーを設置し、乗客が挟まれる
可能性のある場所に接していると警報を発し、利用者に注意を促します。



1 ステップ間の挟まれに
対しても警告。



2 スカートガードに非接触の
状態でいち早く警告。



3 音声と合わせた、
光による警告。



フジテック株式会社

www.fujitec.com



この印刷物には、環境に配慮した大豆油インキを使用しています。